

活動分野：

教育・人材育成

研究者名（研究グループ名）：

看護学部 久米 弥寿子（平成27年度実施責任者）・片山 恵／布谷 麻耶（平成28年度実施責任者）

活動概要

武庫川女子大学看護学部として、兵庫県看護協会の離職看護師に対する再就業支援研修のプログラムの一部を担当し、実施した。

研究者・研究グループからの「ひとこと」

兵庫県看護協会の再就業支援研修に参画し、研修を行ったことは、看護基礎教育と卒後教育について、その共通的な教育の重点内容などを考える上で貴重な経験となりました。
今後も兵庫県看護協会と連携を図りながら、看護師の就業に向けて大学ができる教育的な支援や研修の実施、また効果的な再就業推進に向けての研究的な支援ができればと考えています。

活動内容

活動・研究・委託テーマ	離職看護師に対する再就業支援研修
対象となる地域・企業等	兵庫県看護協会 ナースセンター
活動学生(ゼミ・学年等)	学生参加はなし (教員のみ：研修担当者4名及び当日サポート教員2名)
連携時期	平成27年4月以降 (研修の開催実施は、平成27年9月9日、平成28年2月17日)
学外への広報方法	兵庫県看護協会・ナースセンターが主体となって、HPや配付物、ポスター等で広報を実施した。
連携内容	武庫川女子大学看護学部として、兵庫県看護協会の離職中の看護師への復職支援事業に参画し、地域における看護系大学の社会貢献活動に組織的に取り組んだ。平成27年度は、年2回の研修事業に参画し、患者の病態をシミュレートできる高度シミュレータモデルを使用してのフィジカルアセスメント・創傷ケア研修の開催及び事後評価を行った。
成果	研修後の実施満足度は高く、本研修により再就業につながった受講生がいた。 https://www.hna.or.jp/outline/n_access/nursing_staff_reinstatement_support_project/re-employment_support_workshop/

活動内容PR(活動の様子・参加者の声等)

実施後のアンケートより

- ・ 基本的なことを丁寧に教えてもらえたことがありがたかった。
- ・ シミュレーターを使った実際の呼吸音や腸蠕動音をきけたことがよかった。
- ・ 物品を実際に見たり手に取ったりできたのでイメージしやすかった。
- ・ もっと演習を試してみたくなり、意欲がわいた自分の変化に驚いた。
- ・ 基本的な看護技術も、時がたつてうろ覚えになっていることに気づいた。フィジカルアセスメントは臨床で働いているときでさえ、しっかり理解せずに働いていたのだと反省した。
- ・ 正確な測定方法はもちろんのこと、常に予測を立てながら観察することが適切なアセスメントにつながることを感じた。
- ・ 基礎的なフィジカルアセスメントの学習後、状況設定のアセスメントができより実践的な学びになった。
- ・ 実際に働き始めるとときと同じような緊張感をもって取り組み、自信にもつながった。
- ・ 訪問看護の復職を考えておりフィジカルアセスメントは肝要なので、アセスメントから次の行動を考える思考回路を持てるように、学びを積み重ねたい。
- ・ 一人では見落とししていたり忘れていた観察の視点など、GWにより気づけた。
- ・ 初歩的なことでも質問がしやすい雰囲気だった。不安の緩和ができた。楽しかった。
- ・ 講師が非常にやさしく丁寧に指導してもらえた。
- ・ 看護の力で褥瘡が改善することがわかり、看護師の正しい知識をもったケアの大切さがわかった。
- ・ 外科の経験が乏しかったが、テープのはがし方や、泡立てた石けんの作り方も実践的で、今後活用できる内容であった。
- ・ テープ固定の方法など、今まで気を配らずに実施していたことに気づいた。